

# 小郡市 同和問題 市民講演会



主催 小郡市・小郡市教育委員会

日 時

7月12日土

開場 午後1時30分～

開演 午後2時～

入場  
無料

会 場

文化会館大ホール

講 師

なか にし かず ひさ

俳優 中西和久さん

テーマ

「記憶の中の風景

私の出会った物語たち」

～部落の語り伝え

『火の玉のはなし』～

講演・朗読・三味線演奏

## 中西和久さんプロフィール

劇団「芸能座」で俳優修業。1986年から自作のひとり芝居『火の玉のはなし』をもって全国行脚をはじめ。『しのだづま考』の演技で91年度文化庁芸術祭賞を受賞。同作品で、韓国主要都市を巡演、東欧2か国・ロシア各都市の国際演劇祭へ招待参加する。説経節三部作「しのだづま考」「山椒大夫考」「をぐり考」等で独自の劇世界を創造している。ロシア・エカテリンブルグ国際演劇祭特別賞、福岡県文化賞などを受賞。京楽座主宰・昭和音大講師。人権ラジオ『中西和久ひと日記』(KBC)に出演。



●要約筆記・手話通訳あり

●託児(無料)あり

7月9日(水)までに申込み

## 小郡市同和問題市民講演会

### 「記憶の中の風景 私の出会った物語たち」～部落の語り伝え『火の玉のはなし』～

中西和久さんは、1986年から自作のひとり芝居『火の玉のはなし』をもって全国行脚を始められ、小郡市では、これまでに1987年と1991年の2回同作品の上演をされています。

原作となった『火の玉のはなし』は、筑後地方の被差別部落の古老からの聞き語りを再話し、絵本としてまとめたもので、そこには民話という形で語り継いできた被差別部落の人たちのさまざまな想いが込められています。中西和久さんが『火の玉のはなし』と出会い、何を見出し、それがひとり芝居の全国行脚にどうつながっていったのか。中西和久さんの『火の玉のはなし』に対する想いを中心に語っていただきます。

「部落差別はもうなくなったのではないか」という声も聞きますが、実際には、いまだに差別落書き、土地調査差別や結婚差別などの部落差別が根深く残っている状況です。

なぜ同和問題について考え、部落差別をなくしていかなければならないのか。行政や地域が、そして市民一人ひとりが一緒に考えていくきっかけになればと思います。

## 同和問題啓発強調月間とは

昭和40(1965)年に同和対策審議会答申が出され、昭和44年(1969)年に「同和対策特別措置法」が施行されて、同和問題の解決に向けた取組みが進められました。しかし、その後も差別事件などは後を絶ちませんでした。

このため、福岡県では昭和56(1981)年から毎年7月(「同和対策特別措置法が施行された月」)を同和問題啓発強調月間と定め、差別をなくすための啓発活動を実施しています。

私たちは、誰もが幸せに暮らしたいと願っています。この願いは、誰も侵すことのできない基本的人権として憲法で保障されています。

しかし、私たちの身のまわりには、本人にはまったく責任のないことで、これらの権利が不当に制限されたり、奪われたりしている現実があります。

なかでも同和問題は、今なお存在している重大な人権問題です。この問題は、私たち自身の力で必ず解決しなければなりません。



### 福岡県同和問題啓発 強調月間講演会

入場  
無料

●問合せ先  
福岡県人権啓発情報センター  
☎092-584-1271

- 日時 7月19日(土)  
午後1時30分～4時15分
- 会場 クローバープラザ大ホール  
(春日市原町3丁目1-7)

#### テーマ「同和問題～知る・学ぶ・活かす～」

- 第1部 博多にわか 深川弘輝さん  
(素人にわか劇団「深田一座」団員)  
演題 「人権にわか」(20分)
- 第2部 映画 「菜の花」(20分)
- 第3部 講演 林 由紀子さん  
(毎日新聞 大阪社会部記者)  
演題 「子どもたちに学んだ人権」(90分)

●問合せ先 人権・同和教育課☎72-2111内線532

③ 広報おごおり H26・7・1